



# 信州大学理学部同窓会報

再刊2号 2003年9月30日

信州大学理学部同窓会390-8621松本市旭3-1-1信大理学部内

発行責任者 森 淳

## 同窓会総会のお知らせ

来る11月2日(日)下記により記念講演会と同窓会総会を行います。多数の会員のご出席をお願いします。

記

日時 11月2日(土) 13:30~19:00

内容 13:30~15:30 記念講演会(一般公開予定) 1番教室

講演者 宮地先生、沖野先生 演題 未定

15:30~16:30 同窓会総会 主議題(会費、役員) 1番教室

16:30~19:00 懇親会(参加費 2000円程度) 多目的ホール 以上

大きな躍進をはじめの一歩を！！

会長 森 淳

同窓の皆さん、様々なことが次々と起こるこの時代にそれぞれにがんばっておられる事心より敬意を表します。

戦後50年の中で、今ほど人の命がかくも軽く扱われる時代はなかったのではないのでしょうか。今ほど人の人生がひょいと変えられる、希望が簡単につぶされる時代はなかったのではないのでしょうか。

このような風潮、文化、政治のあり様は許されるものではありません。自然科学を学んだものとして状況を冷静に見極め、誰もが大事にされるというあたりまえのことが可能となるように努力を互いに積み重ねたいものです。

いよいよ国立大学の法人化が決まり、教育・研究体制がどうなるか心配です。教育・研究の実践は、分析、計画、実施、結果、評価、そして次の計画、というシステムに裏打ちされたものです。しかしこのシステムの中の「評価」一つとっても、「何のために」「誰が」「何を」「どのように」「どう使うか」などが明確でなければ、教育・研究にたずさわる者は何処まで意識的かどうかは別にして、このシステムの中でことを進めています。この原則があいまいであればすぐに本来の活用の仕方でないものに変質する可能性が大です。とりわけ「評価」が「評定」にすりかえられると、そのところが「ぶれて」来ることになります。まして大学における教育・研究

という長いスパンの中で成果の現るものであればなおさらのことです。当然のことながら目的は「学生のため」であり、「学問のため」であるわけですが、それ自身が教育基本法の「憲法の理想の実現は教育の力にまつ」とし、「人格の完成」を目指し「平和な国家および社会の形成者として真理と正義を愛し・・・」などと述べられる「教育の目的・方針」から導かれるものである事は言うまでもありません。

どのような時代でも、「真理の探究と人を育てることこそ大学の使命」ということを強調しておきたいと思います。

さて、信州大学理学部同窓会はいくつかの事業を継続してすすめてきました。それらの一つ一つはどれもよろこばれるものでしたし、実際的な大学への支援となったものでした。今後も限られた財政の中で着実に進めていきたいと考えています。一方この歩みの中で、この間学科の同窓会に目に見える変化が始まっています。それは活動の強化であり新しく設立する動きです。今後各学科の独自性を大切にしつつ、可能なことから歩みをそろえていくことがそれぞれの発展に寄与することと考えています。理学部同窓会はそのために尽力するつもりです。しかしながら、なんと言っても同窓会は同窓の皆さんの多くの方々のお力をいただくことなしには前進することは困難です。皆さんの力をお寄せいただいて本当に役に立つ同窓会を築いていきたいと考えています。今後ともよろしく願いするものです。

再刊1号でもお知らせしたように各学科の同窓会の設立準備が進んでいます。数学科の状況と学科設立10周年をひかえた物質循環学科について、すでに活動を行っている化学科の学生会についてお伝えします。

数学科(数理自然情報科学科)同窓会の設立準備について  
(文責 森 淳)

かねてより同窓会を作ろうという声はありましたが、なかなか立ち上げることができませんでした。卒業生も1200人を越

えるという大世帯になりましたし、年齢も相当厚くなりました。また、学科名も変わり「数学科生」は在籍しなくなったこともあり二つの学科をつなぐ新たな「何か」が求められてもいました。厳しい社会情勢のもとで互いの友情をあらためて深めること、の願いに答え、学科(教室)と後輩の学生の皆さんとともに「大学のために何ができるか」を考えるにつけ、やはり同窓会の存在は大きいはずと設立の声をあげることになりました。

そこで準備会を、4月27日(第1回)に松本在住の人を中心に、7月27日(第2回)には長野県内在住の人を中心に集まって行いました。事務局、規約、会費の件あるいは役員の選出など一つ一つ積み重ねながら進めていく予定です。そんなに遠くない時期に理学部同窓会を支える柱の一つとなれるようにしたいと考えています。次は、全国に散らばってがんばっている、すべての卒業生に呼びかけ11月1日に準備会を行う予定にしています。

一般に大学の同窓会の役割は

同窓生の交流・友情を深め互いに励ましあうことのできる基盤づくり

大学の教育・研究・運営を側面からささえとともに、大学から学問的に学ぶものを得る。

大学の発する様々な情報を共有するとともに外への大学からの窓口となる などが考えられます。

多くの人々の力でぜひ成功させていきたいと考えています。

化学科学士会について

事務局 石川 厚

松本化学科学士会第1回総会を本年7月21日に開きました。恩師をはじめ、先輩、後輩らと互に顔をあわせ、旧交を温めたことはもちろん、新しい出会いもあり、松本化学科学士会の良い出発の日となりました。今後も毎年、総会を続けて参ります。どうぞ、積極的に御参加下さい。

### 退官された先生の御近況

2003年3月31日に度退官された化学科の梅本先生と野村先生に御近況を書いていただきました。野村先生は昭和40年(文理学部自然科学科)より本年3月まで化学科で分析化学を長年ご担当され、学内外での要職も歴任されました。これらの御経験を生かして、現在、四賀村の村会議員としてご活躍中です。梅本先生は平成(5)年より、教養部化学科および理学部化学科で一般化学および分析化学をご担当されました。化学の教科書の執筆や化学辞典の編纂をはじめ、深い学識で教育・研究に御尽力頂きました。現在は、自然観察指導員もなさっておられますので、自作の山小屋について原稿をお願い致しました。

在学生向けに講演会も毎年開いてゆきます。本年は、10月31日に、文理9回卒業生、犬飼 紀喜 氏(山之内製薬(株))に講演をお願い致しました。講演会場は理学部です。時間は15時からです。どうぞ、卒業生の皆様もご参加ください。

また、今後の活動の充実のため、松本化学科学士会の評議員を募集します。各年度の卒業生からお願いいたたく申し上げます。是非、事務局までお問い合わせ下さい。

ホームページも開設致しました。理学部または理学部化学科のホームページより閲覧できます。

物質循環学科設立10周年記念会と同窓会の創立準備について (文責 朴虎東)

はや本学科も2004年で設立10周年となります。これを節目に10周年記念会の準備委員会を設立したいと思っております。また、以前より同窓会の設立を願う声が出ておりましたので同窓会の設立も準備したいと思います。

両方の準備委員会を銀嶺祭の初日11月1日に行いますので、お忙しいと思いますが多数の卒業生の皆様の御参加をお待ちしております。日時・場所は以下の通りです。

物質循環学科設立10周年記念会および同窓会創立準備委員会

日時 2003年11月1日(土) 16:00~

場所 信州大学理学部C棟6F

物質循環学科セミナー室(601号)

物質循環学科設立10周年記念会

日時 2004年11月20日(土) 午後

場所 記念式典・講演会: 信州大学理学部講義棟

一番教室 1F

祝賀会: 信州大学理学部C棟2F 大会議室

物質循環学科設立10周年記念会準備委員会

発起人: 塚原弘昭・公文富士夫・朴虎東・島野光司

退官後の近況報告

化学科OB教官 野村俊明

3月1日に最終講義を終え、約38年間にわたった大学生活の残務整理に取りかかった。特に、最後の4年間は附属図書館長としての雑務に追われ、研究の方がおろそかになっていた。この空白を埋めるためには、相当な努力が必要になっていた。この空白を埋めるためには、半ばあきらめの境地も手伝って、退官後は農業に専念するとともに、家内と旅行でもと考えていた。そこで、それまで愛用していた車も約10年たち古くなっていたので、買い換えているところへ旅行をすることにした。

3月22日に、4月27日の四賀村議会議員一般選挙に、私たちの横川区から村議を出すことになり、H氏を推すことに決定した。ところが表向きは健康上との理由で辞退されてしまった。28日にその報告会をかねた残念会が開かれ、そ

のおはちが私のところにまわってきた。今まで大学では、自然科学を学び研究して来たのであるが、行政に関しては、出来るだけ関与しないように心がけ、逃げていた私などに村議は務まらないからと辞退した。しかし、4月に入ってから、今限りでやめられる村議、中学時代の恩師、その他大勢の人たちの説得に会い、しかも何も知らないから適任であるとおだてられ、とうとう引き受けざるを得なくなった。4月27日の選挙まで、選挙運動を通していろいろを経験させてもらった。幸か不幸か当選したが、翌日からは議員としての活動が始まり、5月8日には臨時議会、そして種々雑多な会合等が頻りに開かれ、6月12日から25日までの定例議会と、何もわからないうちに現在に至っている。旅行のために4月1日に購入した新車も、4月には約700km、8月下旬の現在もメーターは約3000kmを指している。

大学においては、退官後の前期は、共通教育の主題別科目を1コマ消化し、後期には理学部の専門科目を1コマ行うことになっている、大学に勤めていた時も片手間に農業を行っていたのであるが、同じ面積に同じ作物を作っているだけであるにもかかわらず、在職中よりも作業が行き渡らずに、家内から不平が出ている有様である。

#### 山小屋便り 化学科OB教官 梅本喜三郎

この春定年退官しました。在職中はいろいろとお世話になり有り難うございました。退官後も前期は、非常勤講師として理学部で無機化学特別講義(電気化学)を1コマ、共通教育では一般化学を2コマ担当しています。居住地は小県郡長門町と立科町の境の旧中山道笠取峠にある長門町営の別荘地に建てておいた8坪の山小屋です。ここから、信州大学と長野県林業大学校に週1日ずつ通っています。信州大学までは意外と近く、ほぼ1時間の距離です。

山小屋の所在地は、蓼科山の北尾根に連なる標高900メートルの山の中で、イノシシやカモシカと近所づきあいをしています。イノシシには開墾した畑のジャガイモを半分とられ

ました。カモシカは畑よりも、その周囲に自生している蕎麦がお目当てです。春は山菜、秋はキノコですが、この夏は雨が多く気温も低めで、すでに何種類かのキノコがでています。

山小屋は、アメリカで経験した素朴な森の週末コテージライフに触発されて自作しようと思いつき、13年前から作り始め、いまだ未完成のものです。はじめは、基礎工事も自分でやるつもりでしたが、まるで地球と格闘しているような感じで、重機の操作も短期にマスターできるとは思えず、結局は、基礎と軸組・外壁工事だけは地元の大工に頼みました。それ以外はできるだけ手作りを心がけ、建築関係の書物を読み、内壁、風呂場、トイレ、台所、作りつけの戸棚などを自作してきました。この春から夏にかけては、これからの長期滞在にそなえて、物干し用の深いひさしをとりつけました。いずれの工程も、作業の要領がわかりかけるのは終わり頃で、しかも細かいところまでは技術がおよばず、出来映えは洗練されたものではありませんが、素朴で力強いものがあると自負したいところです。今後の建設予定は、捨てるに捨てられず大学から持ち帰った品々を納める倉庫をつくることです。

工事を進める間、隙間についてはネズミ、蜘蛛、蜂、ムカデ、かめ虫などが入り込み、雨戸の戸袋には鳥が巣をつくり、雛が巣立つまでは雨戸にもさわらずにいたのですが、いつ知れずいなくなり、あとにはペリットだけが残っていたこともあります。蛇がカエルの上に噛みつき、カエルが子猫のような鳴き声をあげながらもがいていたりすることもあります。今年は昨年が続いてクスサンの幼虫(通称白髪太夫)が大発生しました。ヌルデが好物で、丸裸にされたヌルデの多くは枯れてしまいました。

この度、森林インストラクターに加えて、NACSの自然観察指導員に登録されましたので、よりいっそう身近な自然に対する理解を深めようと自然観察の実地訓練にも務める日々をおくっています。

同窓会では毎年学科の行事等に対する補助金を拠出しています。どのように使われているか今回は数理自然情報学科の担当教官にご報告いただきました。また、理学部が主催する行事、本年度は「自然のふしぎ」でしたが、その実行委員長にご報告いただきました。

#### 研究教育に係わる助成金を受けて

数理・自然情報科学科「新入生ゼミナール」担当教官

信州大学では、「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的として、一年次前期に、教官と学生の人格的な交流を活かすつ、大学生としての自覚を促し、主体性を

持って勉学する姿勢を培う等のために、「新入生ゼミナール」という講義があります。数学という学問とは無縁であり、大学生に何をいまさらと感じますが、これも必要なと思うときもあります。数理・自然情報科学科(旧数学科)では、学科、講座、カリキュラムの紹介、将来必要となる記号を用いた論理の進め方、レポートの書き方、発表の仕方、問題の捉え方を学び、さらに、卒業生を講師に迎え社会人としての心構え、大学での経験談等の話をしていただいています。同窓会から講師謝金の補助を頂き、

14年度は、池田国昭(07S,松本市議)、篠島良一(13S,長野県教員)、斉藤正晃(20S,長野県警)、藤原 誠(94S,

KOA(株)

15年度は、竹田 宏(20S,長野県教員)、三重野順子(90S,ア-イ-エ-エ)三重野武彦(96S,エプソン)の方に来校していただき、有意義な話をさせていただきました。同窓会並びに快く講師を引き受けていただいた皆さんに感謝いたします。学生は私語もなく、居眠りすることもなく熱心に聴き、質問も多く、普通の授業とは格段の差があった。数学の授業に対してもこのように取り組んだら、単位を取りそこなうことも、落第することもないのにと感じました。

このような授業を通して、先輩、後輩という関係から、よりよい関係が生まれることを期待しています。今後もこのような授業を継続していくために、同窓会、並びに同窓生の皆さん大いなる援助をよろしくお願いします。

### 信州大学自然誌科学館「自然のふしぎ」報告 実行委員会 委員長 武田三男

ご協力いただきました信州大学自然誌科学館「自然のふしぎ」は、お陰さまで、去る7月26日~27日の土日2日間にわたり理学部のC館と講義棟を中心に開催し、参加者総数2400名を数え無事終了致しました。これも一重に、ご協力いただきました皆様陰と感謝しており

体験型公開授業  
信州大学自然誌科  
一昨年の「自然のおから始まり、昨年ののふしぎ」そして今年  
のふしぎ」で3回目  
ました。出展ブース  
の数年々増え、  
ブース数:41、パネル数:18となりました。今回は本理学部  
関係者ばかりでなく、附属松本中学校(2ブース)、SSHの諏訪清陵高校(2ブース)、同じくSSHの屋代高校(1ブース)、さらに地元の松本深志高校(2ブース、1パネル)、美須ヶ丘高校(共同で1ブース)に参加していただきました。山地水環境研究センターから1ブースの出展がありました。加えて、学生・大学院生の自主的な出展(3ブース、1パネル)が



方のお  
ます。  
である  
学館は、  
どろき」  
「自然  
の「自然  
となり  
とパネ  
今回は、

### 同窓会名簿

同窓会名簿について 3月刊行、8月刊行と徐々に刊行が遅れてきた同窓会名簿が出来上がりました。会誌と同時に手にされる方もおられます。様々な事情から連絡したのに未だに住所や氏名も直されていないとお怒りになる方もおられるかもしれません。文理の方々を加え学科別の編集となっています。よろしければ同封の振替用紙でご注文ください。3500円です。残部が多数あります。(山本)

新しく増え、それ以外の団体・企業から2ブースの参加がありました。今回、参加人数が予想外に増えた原因としては、天候に恵まれたこともありましたが、中学・高校からの展示参加があったことが大きかったと考えられます。遠くは首都圏や県内でも大町市や川上村からの参加者もありました。当日に実施致しましたアンケートから、来年以降の開催を望む地元の父兄の声が多くありました。この事業が着実に大学の内外に定着しつつあることが窺えます。

また今回新たな試みとして、小中学生から高校生、一般社会人の全てを対象として自然科学に対する疑問に答えるための「自然のふしぎなんでも相談室」を開きました。この相談室は本事業開催期間終了後も引き続き公式ホームページからアクセスすることができるようにしてあります。各家庭や学校から直接アクセスしていただき、自然に対する疑問質問にやさしく答えようというものです。今回の出展ブース及びパネルの簡単な内容と当日の会場の様子は以下のホームページに記載されています。

<http://ripws.shinshu-u.ac.jp/fusigi/>

また、「自然のふしぎなんでも相談室」のアドレスは以下のとおりです。こちらもご覧下さい。

<http://ripws.shinshu-u.ac.jp/cgi-bin/fusigi/light.cgi>

本事業は、理科離れの対策の一貫として、4年前(2000年)に企画実施された、科学技術振興事業団主催、信州大学共催の「青少年のための科学の祭典・松本大会2000」に触発され、その翌年(2001年)から理学部が主催する形で実施することになりました。中学・高校生の理科離れの対策から一歩進んで、積極的に理科好きな「科学者のたまご」を育てることをめざしています。このような事業の性格から、継続してゆくことが最も重要で、来年度以降もさらに発展充実させた内容を企画してゆく予定です。本理学部の地域社会への貢献の一端を担えるものと期待しています。

尚、ご協力いただきました協賛金は昨年同様に各ブース等の学生・院生アルバイトの謝金に使用させていただきました。有り難うございました。

今後とも、なおいっそうのご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。以上簡単ですがご報告とさせていただきます。

### 編集後記

再刊第2号をお送りします。3月の時点で内容等は固まっていたのですが、編集作業の遅れから10月刊行となってしまいました。口絵等を入れる余裕のない編集ですがお許しください。総会を久しぶりに開きます。懸案事項である会費の問題が主な議題です。総会の前に宮地、沖野両先生にご講演をお願いしました。未だ講演内容は固まっていますが、「こんなことが聞きたい」等がありましたら御一報ください。(山本)